

令和5年度 第2回 立川市史編さん委員会 会議録 要旨

開催日時 令和6年3月21日(木) 午後1時30分～午後3時30分

開催場所 たましんRISURUホール第1会議室

出席者 [委員] 大友一雄 小林尚子 ◎白井哲哉 杉浦早苗 鈴木功
豊泉喜一 保坂一房 和田哲

(◎委員長、○副委員長、50音順、敬称略)

[事務局] 産業文化スポーツ部長 井上隆一 市史編さん室長 轟誠悟
市史編さん係長 新藤博 鳥越多工摩 朝比奈新 武田真幸
高野宏峰 渡邊皓太郎 鈴木啓太 山下祐香理

傍聴者 なし

あいさつ

会議は原則公開とする。

<報告>

8. 新編立川市史刊行計画4年延長について(資料7)

事務局より資料番号7に基づき報告した。新編立川市史の刊行計画4年延長案は、令和5年度の10月議会と12月議会の2回に分けて報告を行い、12月議会において承認された。これにより4年延長の刊行計画が確定となったことを報告した。資料7に記載している刊行計画を最終版とし、令和10年度までの市史編さん事業の中で刊行作業を進めていく。

1. 専門部会活動報告及び活動予定について(資料1)

資料番号1に基づき、各部会の担当者から活動報告を行った。

2. 令和5年度新編立川市史の刊行について(資料2)

事務局より令和5年度発行の刊行物について報告した。『資料集 写真集』について、一旦記載の通り令和6年3月8日に納品されたが、印刷の不備が多数見つかったため、印刷会社に対応を依頼した。例年、新刊の頒布開始は4月1日頃を予定しているが、延期になる可能性が高いことを報告した。

【主な質疑】

・(質問)広報刊行物の発行部数を800部とした根拠を知りたい。関係者をはじめ必要な方にきちんと行き届くように、確実な部数を発行してほしい。

→(回答)他自治体の実績を参考にしたほか、関係者、調査協力者、寄贈者への献本と販売数を考慮し800部と定めている。まず予算通りの数である800部を発行し、その後増刷の必要性を追って検討していく流れになる。

3. 令和5年度市史編さん関連講演会及び企画展示について(資料3)

事務局より令和5年度市史編さん関連講演会及び企画展示について報告を行った。令和

5年度市史関連講演会は令和6年1月21日（日曜日）、女性総合センター・アイム1階ホールにて開催した。担当は古代・中世部会、共通テーマを「中世立川の石造物」とし、登壇者は伊藤宏之氏（立川市史編さん古代・中世部会 編集委員）と村山卓氏（立川市史編さん古代・中世部会特定部会委員）である。参加者は78名（半数が市外からの参加）だった。今回X（旧ツイッター）やLINEなど、SNSからの集客につなげることができなかった。ポスター・チラシでの告知を強化することがさらなる集客につながると考えられる。今後は広報の工夫に努める。

また、毎年講演会の開催に利用している女性総合センター・アイムが半年ほど改修工事に入るため、例年通りの計画だと1階ホールを利用することができない。同時期に開催される多摩郷土誌フェアは既に別会場での開催を決定している（日程は未定）。令和6年度は現代部会が担当になるが、代替案としてRISURUホールの小ホールを使って令和7年3月上旬に開催する予定で計画を立てており、登壇者の調整を行っている。

令和5年度市史編さん関連展示は「立川基地のすがた—米国国立公文書館所蔵の写真から」と題し、米国国立公文書館調査委託で得られた成果の一部として写真展を開催した。調査で得られた写真資料は350点程度であり、その中から立川基地の施設や特色が分かるような資料21点を選別し、展示として公開した。

前期を令和6年3月1日（金曜日）から7日（木曜日）午前9時から午後5時まで、立川市役所1階多目的プラザで開催し、後期を3月18日（月曜日）から31日（日曜日）午前9時から午後7時まで、女性総合センター・アイム1階ギャラリーで開催する。

【主な質問や要望】

・(質問)米国国立公文書館調査委託で得られた写真資料は『資料編 写真集』に掲載されているものはあるか。

→(回答)今回展示している中では5点が『資料編 写真集』にも掲載されている。その他、立川基地でのクリスマスパーティーの様子や物資輸送の様子を写した写真などは、全く同じものではないものの同条件で撮影されたものを掲載している。

・(質問)米国国立公文書館調査委託で得られた写真資料の利用について、利用権限は立川市史編さん事業のみ有効であるか。それとも事業終了後に立川市が活用できるような、幅広い制限を設けているのか

→(回答)米国国立公文書館の所蔵資料は米国の公文書であるので、出所を明確にしていれば自由に利用できるものである。市史編さん事業で得られた調査成果を今後どのようにまとめて活用していくか、方針はまだ検討中であるので、今後有効に利用できるような仕組みを整えていきたい。

4. 令和5年度立川市議会議員研修会について（資料4）

事務局より令和6年1月に開催された令和5年度第2回議員研修会について報告した。資料番号4のとおり、参加議員のアンケートの集計結果をまとめた。講師は白井委員が務めた。研修の感想では公文書保存に言及する内容やさらに個別テーマでの講演を希望する意見が多数見られた。

内容は各部会の担当者が重要な項目を選別しまとめた。市史編さん事業の成果のほか、今後の課題も含め約90分で講演を終えた。質疑応答でも制限時間いっぱい質問があり、

アンケートなどの反応とあわせ、公文書館の整備、今後の歴史民俗資料館の運営、砂川家文書の取り扱いなどに関する関心が高いことがうかがえた。作成したスライドデータは別の機会でも活用していきたい。

5. 令和6年度市史編さん事業予算について（資料5）

事務局より令和6年度市史編さん事業予算について資料5に基づき説明した。報償費について、令和5年度に比べて令和6年度の予算は少々減額になっている。金額的にはほぼ各部会の予算案通りの金額であるので、要求額通りと言ってよい状況である。令和6年度の刊行計画にともなう国立公文書館での複写機使用料について増額で要求しているが、予算が認められ要求通りの額となっている。

6. 市史だよりについて（資料6）

事務局より資料番号6に基づいて説明をした。市史編さん事業の期間延長が決定し、「たちかわ物語」の刊行も27号までの刊行が予定されている状況である。今後は特集ページや「資料をよむ」などの掲載内容と市史編さん刊行物との刊行タイミングを調整していく。編さん委員会でも掲載内容について意見や掲載を希望する内容などがあれば共有していきたい。

7. 砂川家の資料調査について

事務局より砂川家の資料調査について経過を報告した。砂川村一番組から四番組の大幟について、令和5年11月6日に国営昭和記念公園内のこもれびの里にて、NPO法人武蔵野の里づくりクラブの全面的な協力を得ながら、市史編さんの調査・研究の一環という位置づけで掲揚、撮影を行ったことを報告した。委員からは大幟に記載されている詩について調査するよう要望が出た。詩の内容について調査可能な研究者は現在見つかっていないが、今後対応する予定である。また、大幟の土台部分に付属する飾り彫刻に関する調査も今後進めるよう要望が出た。

9. 新編立川市史本編（通史）について（資料8）

事務局より資料番号8に基づき、各部会の『本編 通史』の目次案について説明をした。令和6年3月18日月曜日に実施した令和5年度第3回立川市史編集委員会にて体裁について議論し、ある程度方針が固まった点を報告した。通史の体裁について、判型はB5、縦書きの2段組、上製本、フォントサイズが10.5ポイントで意見がまとまっている。また、近世部会からは、各時代の冒頭で総説を執筆すること、必要に応じてコラムを掲載することが提案された。

【主な質問や要望】

・(質問)近世部会のページ数が他の部会に比べて十分でないように感じる。また、他の部会と章立ての構成が違うという点に関して、1冊の本として他の部会との統一感というのも考慮すべきではないか。

→(回答)ページ数は極力コンパクトにまとめることを念頭に置いているものの、編集の過程で分量が増えていくことは避けられないと捉えており、まずは少なく見積もってから

徐々に内容を充実させていきたいねらいである。また、全体の構成に鑑み、構成の違いは許容範囲と捉えている。

・(要望)新編立川市史刊行物をPDFデータでインターネット公開すべきと考えている。事務局内での議論の経過を知りたい。

→(回答)現時点では個人蔵の資料の多さもあり資料編のインターネット公開は難しいと捉えている。『本編 通史』については今後議論が必要であるという認識ではあるものの、具体的な話は進んでいない。今後各部会で情報共有した上で、事務局でも検討していく。

・(要望)立川市近隣地域を含む広範囲の環境史や地形の解説だけではなく、立川市独自の自然史の記載についても議論してほしい。

→(回答)動植物の調査については担当者とこれまでの調査実績が無いため『本編 通史』での記載は難しいと編集委員会議でも判断している。立川市の地形や環境史についての記載は項目ごとに適宜行う予定である。

・(要望)参考として、多摩川流域の河川変動に関する解説などを付すると立川市域の歴史を知る上で有用であるのではないか。

→(回答)適宜可能な範囲で対応する。

<終了 午後3時 30分>